

# JP135 曾根干潟 (そねひがた)

福岡県：北九州市、苅田町

位置	N 33° 49' E 130° 58'
面積	660ha

## 環境構成【干潟/農耕地】

約 550ha の干潟と干潟に流入する四本の河川および農耕地や村落を含む後背地に多くの野鳥が生息し、これらの場所を合わせた約 2,300ha が福岡県の銃猟禁止区域に設定されている。しかし、陸域側(後背地)を利用する鳥類、あるいは干潟と陸域部を相互利用する鳥類が多いことから陸域部を指定区域に拡大し、保全が望まれる。両方保全を考えないとこの付近に生息または渡来する鳥類は減少すると考える。



写真提供：武田尊史

## 選定理由

A1	ズグロカモメ
A4i	シロチドリ・キアシシギ・チュウシャクシギ・ズグロカモメ

## 保護指定

法的な担保がない、もしくはわずか(10パーセント未満)である

## 保全への脅威

- ・干潟陸域側で、都市計画道路築造工事が着手、関連箇所は 2020 年度完成予定。
- ・地元主導で干潟関連個所に洋上風力発電計画があり、万一実現すればこの付近の鳥類に影響が非常に大きいと推測される。

## 鳥類の個体数、生息環境の現状

- ・ IBA サイトにおける重要な鳥類 (IBA 選定基準種) の個体数の変化  
ダイシャクシギの越冬数はほぼ 70 羽台で近年推移
- ・ IBA 基準種の個体数のカウント調査実施の有無：無
- ・ IBA 選定基準種の個体数に影響するような、IBA サイト内の重要な生息環境の変化：  
不明

- ・ IBA 選定基準種の生息環境：  
悪い（40～70%が最適の状態）
- ・ IBA エリアの保全管理計画の有無：無

## 保全活動

- ・ 環境教育活動：実施者（日本野鳥の会北九州支部）  
内容：月1回、定例探鳥会実施（約25年間）  
市立曾根東小学校で年1回、全校挙げて探鳥会実施
- ・ モニタリング調査：  
ガンカモ一斉調査を毎年実施（日本野鳥の会北九州支部）  
調査活動（北九州ズグロカモメ研究会）
- ・ その他：  
都市計画道路6号線について提言後北九州市と折衝、野鳥観察施設構想の実現化について取り組み、鳥獣保護区実現に向けての取り組み、曾根干潟定例探鳥会実施後20年経過したので20年間の報告書作成(2008年3月)、福岡県・北九州市への要望・折衝（以上、日本野鳥の会北九州支部）  
曾根海岸清掃作業（年2回）（主催：市立曾根東小学校他）

## 見られる鳥

春秋の渡りおよび越冬期の種数・個体数が多く、シロチドリ、チュウシャクシギでは最小推定個体数の1%以上、ダイゼン、オオソリハシシギ、ダイシャクシギ、キアシシギ、ハマシギでは同0.5%以上が記録されている。アジア版RDB種のカラフトアオアシシギ、ズグロカモメが記録されている。

2009年12月29日オオハクチョウ2羽が飛来した（滞在せず）。

<b>12月または1月に観察される種</b>	カイツブリ、カンムリカイツブリ、カワウ、コサギ、アオサギ、クロツラヘラサギ、ツクシガモ、マガモ、カルガモ、コガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、スズガモ、ミサゴ、トビ、ハイロチュウヒ、チュウヒ、ハヤブサ、チョウゲンボウ、バン、タゲリ、ダイシャクシギ、タンギ、ユリカモメ、セグロカモメ、カモメ、ウミネコ、ズグロカモメ、キジバト、カワセミ、ヒバリ、セグロセキレイ、モズ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ミヤマガラス、コクマルガラス、ハシボソガラス、ハシブトガラス
------------------------	--

## 関連団体・自治体・施設等

- ・ 日本野鳥の会 北九州支部
- ・ 北九州市立いのちのたび博物館





Sources: Esri, HERE, DeLorme, TomTom, Intermap, increment P Corp., GEBCO, USGS, FAO, NPS, NRCAN, GeoBase, IGN, Kadaster NL, Ordnance Survey, Esri Japan, METI, Esri China (Hong Kong), swisstopo, MapmyIndia, © OpenStreetMap contributors, and the GIS User Community